

2024.3.22

田村まみ組織内参議院議員、厚生労働委員会で質疑！

## 令和6年度(2024年度) 介護報酬改定について質疑を行いました。



田村まみ議員、武見厚生労働大臣（右）

<https://youtu.be/9ywl3thQ3uk>

田村まみ組織内参議院議員、発言抜粋

### 令和6年度 介護報酬改定(訪問介護の基本報酬引き下げ)について



#### まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「介護業界の問題を国会で訴えていただきたい！」

「現場の実情を理解した改定をしないと、日本の医療・介護・障害福祉の未来はありません！」

「給料が安く退職率が高いため、就労が安定せず現場では疲弊しています。どうかもう少し介護の現場の現状を見ていただきたい。」

「介護・医療・福祉を受ける側も、従事している側も報われる制度を望みます。」

- 介護経営実態調査の結果、他の介護サービスに比べて訪問介護事業の利益率が高いことを理由に、令和6年度介護報酬改定で基本報酬が引き下げられる訪問介護については、中山間地の一軒一軒を時間かけて回るものから、都市部のサービス付き高齢者住宅を訪問するものなど、様々な様態がある中で、これら

---

を一括りに利益率が高いとしたことが、赤字経営の中小や地方の訪問介護事業者から大きな反発を招いていると指摘しつつ、大臣の認識を確認しました。

- 武見大臣ならびに厚労省からは、基本報酬の引き下げとは別に、過疎地域での訪問介護事業者への加算や、同一建物等の居住者へのサービス提供のさらなる適正化など、きめ細かく対応しているとの回答がありましたが、基本報酬の引き下げの上での加算措置ではなく、そもそも現場の実態にあわせた改定をすべきだったことを改めて指摘しました。
- 今年の9月に実施予定の「介護報酬改定の検証及び研究調査」について、地域要件や態様別の調査を実施しつつ、次期改定を待たず、調査結果を踏まえた柔軟な対応の必要性を訴えました。
- 介護従事者の賃金が全産業平均から乖離していることへの取組みの重要性を改めて訴えつつ、大臣の見解について問いました。